

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2771900632
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム 奏音
訪問調査日	平成 20 年 10 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 4 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2771900632
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム 奏音
所在地	大東市御領1丁目10番18号 (電話)072-870-0316

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年11月4日

【情報提供票より】H20年9月20日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13人	常勤	6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	40,000円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 円 月額 円			

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	78歳		91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川クリニック 長瀬診療所 ゆん歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症高齢者ケアの本質を求めて志を同じくする5人が、大東市第1号として開設したホームである。開設して5周年、利用者の高齢化・重度化が進む中で、要介護度5の3人もケアに油断のできない状態にあるが、設立時の5人を中心としたスタッフのチームワークの力が随所に活かされ、利用者一人ひとりが伸びやかに和んでいる。スタッフの異動も少なく、利用者・家族には強い安心感と信頼感がある。また新規に、食器洗いと洗濯に有償ボランティアの導入を図り、スタッフがゆっくり利用者に寄り添う時間を増やせる体制が整いつつある。来年度には新卒者を確保し若い世代の育成に力を注ぎたいとしている。今年度からは、新任区長の理解ある協力体制の下に、地域との関係も一段とよい方向に進みつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念「ありのまま その人らしく ここちいい暮らしを」には、地域に在っては当然のことであり、ことさら言葉での表現「地域云々」は不必要としている。運営推進会議も新年度区長の理解と協力により5月からの開催されており、当ホームに寄せられる地域の期待度も大きくなっている。地元消防団員であるボランティアの協力を得て、近隣住民と共同の避難訓練も呼びかけたいとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を全員で共有し改善を図ったことで、更に今回の自己評価に対する意識が高められ、日々の実践の原点をふり返る基としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	新区長の理解と協力を得て5月に第1回を開催し、奏音 について地域の理解を深める手がかりを得ている。これを機会に、会議に出席した近隣の介護事業者と共同で、地域福祉に要する「介護マップ」の作成に取り組んでいる。完成時にはこれを基にして、推進会議の構成メンバーや運営方法について再考し、会議の活性化を図りたいとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者・家族からの苦情等はない。これに驕ることなく、更に最新の注意を持って意見・要望を聴く努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	高齢化、重度化により、地域行事への参加は限られてきているが、地域ボランティアの訪問が頻繁にあり、日常での散歩や買い物での交流も密度を増している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に在って、地域との交流があるから、「ありのままその人らしく こころいい暮らしを」支援できるとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、職員会議等ではその基本とするところを確認しつつ、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢化・重度化に伴い、地域行事等への参加は難しくなりつつあるが、出来るだけ参加するよう努めている。地域の診療所、マンション組合からの要請を受け、認知症についての講演会を行うなど、地域住民との交流が増えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善課題としての認識を共有し、その改善へ取り組んでいる。更に新しく自己評価に関わることにより、日々の実践のふり返しを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新区長の理解と協力の下、5月に第1回の開催となっている。構成メンバーを再考し、運営方法についても研究したいとしている。その努力と成果に大いに期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大東市第1号のホームとしての関わりから、市担当者の認知度、期待度も高く、常時、諸事についての連絡連携がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の頻繁な来訪があり、その都度に担当者・管理者が必要な報告をしている。遠隔者も含めて、月に1度、書面による報告もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情・不安はないが、面会時の会話などに注意を払い、些事な事にも耳を傾けるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は非常に少ない。代表者・管理者が共にケアに従事する中で、個々の職員への気配りを怠らず、実地にスキルアップを図ることが、職員のモチベーションの維持と定着に繋がっているようだ。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲と能力に応じて希望する各種研修会参加、資格取得等については積極的に応援する体制をとっている。研修会資料、報告書等は整備、閲覧され、また勉強会にて応用されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣の介護事業者の参加があり、情報交を換し介護マップ作りなどの共同作業も行っている。 市内の同業3者と、運営推進会議についての会合を持つなどの試みもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば、24時間滞在経験も受け入れている。近年は病院・老健などからの即時入居があり、「薬」での抑制による弊害もあるが、スタッフの見守りで乗り切り、家族の大きな安心を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	担当者を配置し、「ゆっくり」と向き合うことで、「快互」の良い関係づくりを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食器洗い・洗濯に朝・昼・夕に2時間の有償ボランティアが入ることにより、担当者が個々に ゆっくり 寄り添うゆとりができてきた。この ゆっくり の中で一人ひとりを理解し、全員で共有するメリットは大きいものがある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望と本人の状況の把握に努め、計画作成者と担当者が話し合いで計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護についての個人記録、業務日誌、全体の気付きノート等を参考に、定期的及び変化に応じて見直しを図っている。その都度家族へ報告し了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	移動サービス、外出介助、ショートステイの支援を行い、協力病院の支援体制も整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特殊な疾患による診察・診療以外は、協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、2週に1回の往診をうけている。急変時の受診・治療体制も整っている。従来のかかりつけ医への受診希望も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢化・重度化が進み、終末期に近い利用者が在るなかで、看取り介護についての同意書「緊急時の対応について3項目」「看取り期についての対応6項目」が用意されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々人の経歴・生活歴を考慮しつつ、その人にふさわしい、節度ある言葉の使い分けと対応を心掛けている。個人情報の取り扱いも十分に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	有償ボランティアの導入により、担当者が ゆっくり 対応できるようになり、より一層一人ひとりのペースに合わせた支援が出来るようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理された献立ではなく、利用者の状況に合った、季節感を取り入れた献立による調理が行われている。外食や出前の取り寄せなどの工夫もある。各人の意向・能力にあわせた「お手伝い」も、いい雰囲気で行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴可を原則とし、各個人の意向に沿った入浴支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢化・重度化のなかで、残された機能を確認しながら、各人のやりたいことの一つ一つを取り入れて、こころいい暮らしへの支援をおこなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各人の希望と心身の状況に合わせ、天候・季節を選んだでの外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠することなく、さりげない、且つ細心の気配りでの見守りが行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者参加の定期的な非難訓練と年1回の消防署を交えての訓練が実施されている。また、夜間の避難訓練を想定しての職員訓練も行っている。しかし、近隣住民の協力を得るところまでには至っていない。	○	運営推進会議での介護マップを活用して、近隣住民・近隣工場の協力要請に努めたいとしている。努力と成果に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームの独自の個人記録に記入・整備により、利用者一人ひとりの状況を把握している。きざみ食・トロミ食の対応もあり、食事介助も適切に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外観も居住空間も普通の民家と大差のない雰囲気がある。居間には床暖房がり、季節感のある設えに、狭いながらも楽しい、落ち着いたある 我が家 の風情が窺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室床は、足下の冷えと転倒に備えてクッションフロアーとなっており、家具の持ち込みや家族による装飾もあつて、夫々に個性ある部屋となっている。		